

カトリック

広島教区報

No. 130

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

「教区創立百周年」を

一年間かけて祝う

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

はじめに

広島教区の兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは、日本に接近した台風十四号の影響を受けて、「教区の日」

(今年は九月十九日)の前日九月十八日(年間第二十五主日)に、それぞれの小教区で教区創立百周年の開年ミサをささげて



「教区創立100周年」開年ミサの様子 (米子教会)

いただき、創立百周年を祝う一年をスタートしました。開年の司教ミサのために会場提供を引き受け、ご協力くださった米子教会の皆さんに、改めて御礼申し上げます。

過去を学ぶことは、

現在を知ること

開年ミサの翌日「教区の日」当日の午後には、当初から予定されていた「広島教区創立までの日本カトリック教会史」というテーマで、援助修道会の三好千春シスターに、オンラインで記念講演を行っていただきました。明治初期のキリスト教の再宣教師時代から、「広島代牧区」(使徒座代理区)が創立されるまでの日本の教会の歴史を、詳しく説明していただきました。この記念講演は、教区のホームページにも掲載されており、今でも視聴することができます。また、三好シスターが使用したパワーポイントの資料も、教区のホームページからダウンロードして読むことができますので、ご活用いただきたいと思えます。日本のカトリック教会の歴史を背

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

司教メッセージ・じゃけえのう・典礼の窓
教区の動き・平和行事
J-CaRM
地区・海峡からの風・青少年・書籍紹介
ひと粒

一〜五面
五〜七面
八面
九〜十面
十二面

先日、山口島根地区の司祭の集まりがありました。その折東京のイエズス会の酒井陽介神父様(上智大学)が「キリスト者の召命と青年司牧」というテーマで講演をしてくださいます。その後、何人かの司祭に感想を求めたら次のような感想を聞くことができました。

今年の十一月の「待降節第一主日」からミサの式次第が変わります。多分慣れるまではいつも式次第を手持ってミサに与かるのでしょうか。この式次第を早く暗記することではなく、「式次第と聖書と典礼」を通してミサに与ることのすばらしさについて体験し、特にミサに与る人たちが受け取る恵みについて考えてもらいたいと思えます。たとえばミサに与って家路につくとき、「安らぎ」(平和)に満たされていますか?あるいは聖体の秘跡によって洗礼を受けた者としての自覚を取り戻していますか?などを振り返る時なのではないでしょうか。ミサの式文が変わるこの時だからこそ、自分はどうのようにミサに与っているかを振り返る大切な時にしてもらいたいものです。

「今、地方の教会は『司祭の数が少なくなっている、信者の高齢化が進んでいる、青年たちの姿もほとんど見えない』という状況の中で一体何ができるのだろうか」という感想や、「今、地方のお医者さんがそれぞれの家を訪問して老人の病人を見ているように、教会に来ることができなくなった高齢の信者さんを家まで訪ね歩く司祭の司牧ということも考えねばならない時代が来ているのではないか」という感想もありました。

かつての教会のイメージではなく、現代は全く新しい発想の司牧のイメージと共に今の時代だからこそ「キリスト者の信仰

(山口道晴神父)

景にした教区の歩みを学ぶために、開年の記念講演をしてくださった三好シスターの著書『時の階段を下りながら―近現代日本カトリック教会の序説―』（オリエンス宗教研究所）の読書をお薦めしたいと思えます。

三地区のリレーによる主要な行事（ミサと記念講演会）

岡山鳥取地区の米子教会から始まったミサと記念講演



→教区創立百周年開年ミサ（米子教会）
左から、斎藤神父、白浜司教、大西神父、ダン神父

演会は、次に、山口島根地区の山口教会へとリレーされて行きます。

二〇二三年年四月二十九日（土）、山口教会のサビエル記念聖堂は、ちょうど献堂二十五周年を迎えます。

この献堂のお祝いに合わせて、山口教会の皆さんのご理解と、山口島根地区の皆さんのご協力を得て、当日、①「献堂二十五歩み」の紹介、②教区百周年史編纂委員会による「広島教区の百年の歴史」をテーマとする記念講演会を行った後に③山口サビエル記念聖堂・献堂二十五周年記念ミサがささげられます。なお、教区百周年史編纂委員会は、広島教区の百年史（仮称）の編纂を行ない、二〇二四年五月四日を目標に、その出版を目指して膨大で緻密な作業を続けておられます。

教区創立百周年の記念日は、二〇二三年五月四日になります。その前日五月三

日の津和野乙女峠まつりの

ミサ（前田万葉枢機卿 司式）と、

その前夜祭の講演会が行われるために、教区創立百周年の意向を加味して実施し

ていただく予定になっています。そのため五月四日当日には、特別な行事は行わず、各小教区・修道院でのミサや教会の祈りの時に思い起して、お祈りをささげていただきたいと思います。

教区創立百周年を祝う一年は、二〇二三年九月十八日（敬老の日）「教区の日」に予定されている記念講演会と閉年ミサをもって、閉じられることになっています。会場となるのは、世界平和記念聖堂（カトリック熾町教会）で、広

教区創立100周年ポスター

島地区がその準備の担当と

なっています。その当日には、先に、イエズス会の川村信三神父様によって、日本の教会のこれまでの歴史を振り返りながら、「これからの福音宣教について」というテーマで記念講演が行われる予定になっています。その後、閉年ミサをささげて教区創立百周年の一年を結び、同時に「二〇二〇教区代表者会議」（教区シノドス）後の

司教教書の中で示されている新しい歩みに向かう、出発点にして行きたいと願っ

ています。

その他の行事

①日本聖書協会との協働

教区創立百周年を祝う一年の間に、先に紹介した主要なミサと記念講演会の他に、種々の行事や企画が織りなされて行きます。間もなく開催される行事として、二〇二二年十一月六日（日）に、エリザベト音楽大学サビエルホールを会場として、午後二時から三時半まで、日本聖書協会主催・広島教区後援によって、佐藤裕子氏・高橋洋成

氏による「聖書とことば・聖書のことば」というテーマの対談が予定されています。そして、会場を世界平和記念聖堂（カトリック幟町教会）へ移して、午後四時から午後五時まで、広島教区主催・日本聖書協会共催による手話訳聖書チャリティ・広島教区創立百周年記念オルガンコンサートも企画されています。

わたしたちは、これらの聖書関連の企画を、信仰生活の源泉である聖書（神のことば）に立ち返る機会にすることができればと願っています。そのために、パウロがテモテに宛てた手紙を、今一度、心に響かせましょう。「あなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、

人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」（Ⅱテモテ 3・14―17）。

② 「聖書通読写経キャンペーン」

創立百周年を祝う前から、教区では「平和の使徒推進本部」による「聖書通読写経キャンペーン」が企画され、教区がすべての小教区にリレーをお願いしてきた旧約と新約の聖書写経を完成して製本し、閉年ミサの中で、奉納する準備も続けられています。そして、この「聖書通読写経キャンペーン」の企画は、今後も継続されることになっていきます（『広島教区報』二〇二二年七月十七日・二一九号七面下段参照）。聖書写経に関して言えば、現時点（二〇二二年七月十七日）で、旧約・新約全巻の写経を終えられた方が合計一〇名、新約聖書のみを終えられた方が二十七名、旧約聖書のみを終えら



Tシャツとエコバッグ

③ ワールド・ユース・デイ・リスボン大会への青年の派遣

次の世代に信仰のバトンをつないでいくため、これまで教区では「青少年の育成」を優先課題の一つとして種々のチャレンジに取り組んできました。そのため为中心的な役割を担ってきた「青少年情報センター」が、「二〇二〇教区代表者会議」（教区シノドス）の提言を受けて、今年六月より、「青年活動企画室」へと移行されました。従来の青少年に関する公式な情報発信を含めて、企画、運営、ネットワーク作りなどにも力を入れる新たな役割を担うこととなりました。

（『広島教区報』二〇二二年七月十七日・二一九号一面参照）。

また、教区創立百周年を祝う一年の期間中に開催されることになっているワールド・ユース・デイ・リスボン大会（二〇二三年八月一日～六日）へ、教区の青年を派遣する企画が予定されています。また、その支援のために、青年たちの提案で作成された教区創立百周年の記念グッズ（エコバッグ、Tシャツ）の販売もすでに始められています。司教による小教区の司牧訪問（公式訪問）等を機会に、「青年活動企画室」のスタッフを同伴して、皆さんのご協力をお願いする

ことも考えています。

④ 「福音ひろば」（世代別オンラインサロン）
「二〇二〇教区代表者会議」（教区シノドス）は、コロナ禍でオンラインによる開催となりました。その終了後も、参加者からオンラインでつながって、分かち合いや意見交換を行う機会を作ってほしいという要望が聞かれ、「青年活動企画室」の発案で、世代別オンラインサロン「福音ひろば」が、この十月からスタートしています。

毎月一回、第一木曜日（十八歳～二〇代）、第三木曜日（三〇歳以上どなたでも）午後八時～九

福音ひろば

ともに歩むあなたがある
教会をめざそう

世代別
オンラインサロン
2022年
10月スタート

「福音ひろば」パンフレット

時の開催となっております。参加については、「青年活動企画室」(電話082-221-0664)までお問い合わせください。

⑤「イエスさま・マリアさまへのてがみ」(子ども企画)

教区の多くの子どもたち(幼児〜十八歳まで)を対象に、教区が創立百周年という歴史的な節目の時を迎えていることを知っていたら、イエスさま・マリアさまに、日頃の信仰上の素朴な疑問、思い、願いなどの自由なテーマで手紙(四百字以内)を書く企画が、今年の「教区の日」

一年かけて祝う意図

教区創立百周年を祝う一年の主なミサや記念講演会、種々の行事の企画を通して、わたしたちは、まず、これまで教区を導いてくださったいづくしみ深い神様に心からの感謝をささげ、信頼を深める機会にしたいと思えます。また、神様の導きに応えて、それぞれの小教区また教区の

「わたしの召命」

皆さんがご存じのように、教区創立九〇周年からの一〇年間の教区の長期的目標は、「チャレンジ新しい福音宣教〜わたしをお使いください〜」というテーマでした。この一〇年間で締めくくる二〇二三年度の宣教師の目標は、「わたしの召命」となっています。この目標を心に刻みながら、教区創立百周年を祝う一年を、信仰継承のバト

改訂の背景と方針

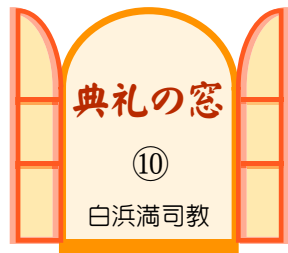
これまで日本の教会が使用してきた『ミサ典礼書』は、一九七五年三月に公布されたラテン語規範版(第二版)に基づいて翻訳と適応がなされ、ローマ教皇庁典礼秘跡省からの暫定的な認証を受けて、一九七八年

十二月に出版されたものでした。その後、二〇二二年三月に典礼秘跡省からラテン語規範版(第三版)が公布されたために、全世界の教会は、この第三版に基づいて、従来のミサ典礼書の改訂を行う必要が生じていました。日本の教会でもその作業が二〇年近く行われてきました。そして、司教団の認可を受けた後に、典礼秘跡省に提出していたミサの式次第等が、昨年二〇二二年五月の聖霊降臨の主目によりやく認証されました。そして、今年の待降節第一主日(十一月二十七日)より、新しい式次第を用いて、一斉にミサがささげられていくことになりました。日本語のミサの式次第の改訂は、四十四年ぶりのこととなります。今回の日本語のミサの式次第は、おもに、①ラテン語規範版(第三版)の忠実な翻訳、②従来の日本語固有の適応の見直し、③日本語として、文語体から口語体への移行が主な改訂の方針となりました。ただし、国語の観点から、現代



「イエスさま・マリアさまへのてがみ」ポスター

ために働いてくださったすべての宣教会・修道会・在俗会の会員とわたしたちの信仰の先達、すべての恩人に対する感謝を新たにする機会にしたいと思えます。さらに、教区創立百周年を祝う種々の企画を通して、互いに教区民としての交流や絆を深め、信仰継承のバトンを、次の世代につないでいく決意を新たにしたいと思えます。



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

新しい「式次第」によるミサの実施について

ご存知のように、日本の教会では、今年十一月二十七日(待降節第一主日)から、新しい「式次第」によるミサの実施が始まります。

ンを次の世代につないでいくために、それぞれ、今の自分のできることを見つめ直し、勇気と行動をもって新たな一歩を踏み出す機会にすることができればと願っています。

十二月に出版されたものでした。その後、二〇二二年三月に典礼秘跡省からラテン語規範版(第三版)が公布されたために、全世界の教会は、この第三版に基づいて、従来のミサ典礼書の改訂を行う必要が生じていました。日本の教会でもその作業が二〇年近く行われてきました。そして、司教団の認可を受けた後に、典礼秘跡省に提出していたミサの式次第等が、昨年二〇二二年五月の聖霊降臨の主目によりやく認証されました。そして、今年の待降節第一主日(十一月二十七日)より、新しい式次第を用いて、一斉にミサがささげられていくことになりました。日本語のミサの式次第の改訂は、四十四年ぶりのこととなります。今回の日本語のミサの式次第は、おもに、①ラテン語規範版(第三版)の忠実な翻訳、②従来の日本語固有の適応の見直し、③日本語として、文語体から口語体への移行が主な改訂の方針となりました。ただし、国語の観点から、現代



堅信を授ける白浜司教
(三篠教会 9月25日)

『ミサ』、あるいは従来の『ミサ典礼書』との併用が必要です。十全な形で日本語の『ミサ典礼書』改訂版が発行されるためには、まだ五年ほどかかる見込みです。

②会衆用の冊子
会衆用の冊子の出版は、カトリック中央協議会では行わず、カトリック出版社にお任せしています。ドン・ボスコ社、オリエンズ宗教研究所、光明社、サンパウロ社から出版されている冊子の購入の準備を、それぞれの小教区や修道院で、よろしく願います。

実施の諸準備のために
①司式者用の『ミサの式次第』

カトリック中央協議会より一〇月下旬に、司式者用の『ミサの式次第』が発行されます。ただし、この式次第には公式祈願や入祭唱・拝領唱などの式文は掲載されていないために、カトリック中央協議会から発行されている『毎日の

③外国籍の信徒用の冊子
カトリック東京国際センター(CTIC)から三種類のミサガイド(①日本語・ローマ字・英語・フィリピン併記、②日本語・ローマ字・スペイン語・ポルトガル語併記、③日本語・ローマ字・英語・ベトナム語併記)が準備されており、十一月上旬に発行の予定です。これらのミサガイドはいずれも一冊一〇円で、注文の受付がなされています。カトリック東京国際センター(CTIC)のホームページを参照してください。

④ミサの賛歌(ミサ曲)の楽譜と音源について
カトリック中央協議会のホームページに、日本カトリック典礼委員会が準備した「ミサの賛歌(ミサ曲)」の三種類(A・B・C)の楽譜と音源が掲載されており、ダウンロードすることが出来ます。伴奏用の楽譜、ミサの式次第の楽譜も、準備が整い次第、掲載されていく予定です。カトリック中央協議会のホームページからダウンロードすることが難しい方々のための配慮を、どうかよろしくお願いいたします。

なお、使用中の『典礼聖歌集』に掲載されている従来のミサの賛歌(ミサ曲)は、歌唱する場合は、そのまま(従来の式文で)歌唱することができるとい

針が取られることになっていきます。しかし、ミサの賛歌を唱える際には、必ず新しい式文で唱える必要があります。

終わりに

あと一ヶ月ほどで、新しい式次第によるミサが開始されていくこととなりますが、それぞれの小教区や修道院での諸準備を、どうぞよろしく願います。選択肢がある式文については、それぞれの共同体で、司祭や典礼係を中心に、どのような選択をしていくのかの話し合いも必要です。ミサの式次第の四十四年ぶりの改訂を機会に、改めてミサ(感謝の祭儀)の意味やその素晴らしさを学びながら、新しい式文の味わいを深めていただければと願っています。新しい式次第を用いてミサが実践されていく中で、種々の疑問や戸惑いも生じることと思いますが、皆さんのご理解とご協力を、どうかよろしく願います。

教区の動き
平和の使徒推進本部

米子での教区創立百年周年記念開年ミサ

九月十九日(月)に教区百年周年記念ミサが開催される予定でしたが、ご存知のように台風十四号が十九日に中国地方を直撃すると情報があつたため、十八日(日)に繰り上げて開年ミサをすることになりました。

当日は白浜司教様が来られるまでにと、朝早くから教区創立百年周年記念行事実行委員会の方々がチューブで放送するために色々な機材を設置し、ごミサに備えました。祭儀の流れは折角作成された「開年のミサの葉」を使ってではなく、「主日のミサの葉」に従ってのごミサでした。

参加者は米子教会と、開年式のお手伝いに来られた青年などを入れて約百三十名の参加になりました。

予想された台風は十八日のごミサが終わってもまだ米子には到達せず、十九日



ミサの中で説教を行う、斎藤神父

ミサの開催教会になったところから、ミサの開催教会が開年

も時折 強い風と、雨がパラパラ降るぐらいでした。でも参加者の米子への往復路と、お暮しの地方では被害が見られたようで、残念でしたが中止の判断も適切だったと思われま

は、「教区百年の開年のミサを岡山・鳥取地区で」との話が岡山・鳥取地区会議であり、何時も山陽側でしか大きな行事が行われてい

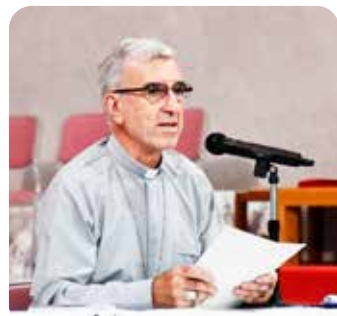


ミサ (退堂) の様子

この話を受け、米子の評議会ですべて話し合

後は実行委員会に係る米子の青年の協議・連絡・報告をもとに計画を作成

当日の人員配置も駐車場係(三名)、受付(三名)、教会内の案内係(三名)、救護係(二名)、接待係(二名)、手話(二名)、オルガニスト(二名)、侍者(四名)、朗読者、共同祈願など、担当を依頼し米子教会での開催に備えました。



アベイヤ司教

【平和祈願ミサ】は大坂大司教区の補佐司教、酒井

一階エントランスを来客の受付、一階御聖堂入り口付近に販売コーナーを配置のレイアウトを決定しました

八月五日、六日、今年の平和行事も、近年と同様に新型コロナウイルス感染症対策のため教区外からの参加は司教様方に限定して行われた

その後、聖堂とマリアホールに分かれ【分科会】を行った。聖堂では、幟町教会信徒の青葉憲明さんによる「世界平和記念聖堂の保存工事とラサール神父の願い」、マリアホールでは観音町教会信徒の朴南珠さんによる被爆証言が行われた

二〇二二 平和行事 「平和の糸を紡ぐ」 愛し合うきょうだいとして生きよう！ 平和行事実行委員会 実行委員長 大西勇史 神父

開年ミサ、記念講演 QRコード

開年ミサ、記念講演はYouTubeで視聴が可能です。



9/18 開年ミサ 米子教会



9/19記念講演 Sr. 三好千春 (援助修道会) ZOOM開催



平和行事に参加した司教団

俊弘司教による司式と説教で捧げられた。酒井司教は説教で「わたしはキリスト者が平和を語る時に忘れてはならないことがある。それは単に平和を語るのではなく、平和の宣教師でなくてはならない。言葉だけでなく、存在そのもので平和を宣教する者でなくてはならない。」と語られた。

ミサ後、日本聖公会合同行事【平和のための集い】が原爆供養塔前で行われた。夜八時から教区青年活動企画室（旧青少年情報センター）による【テゼの祈り】がYouTube配信された。八月六日は、白浜司教の司式と説教で【原爆とすべての戦争犠牲者のためのミサ】が捧げられた。その後、【講演会】では、アルペンなんみんセンターの漆原比呂志さんが「難民の友に、難民と共に。」というテーマで行われた。この様子は八月二十一日付のカトリック新聞にも掲載された。

午後には【カトリック中高生企画】が漆原比呂志さんを講師に迎え「友になること」というテーマでオンライン開催され、また聖堂では諸宗派合同行事【キリスト者平和の祈り】が加藤正矩さんを講師に迎え行われた。また、コロナ禍のため開催されていなかった【フォーレ「レクイエム」】も数年ぶりに開催された。そのほか、ノートルダム清心中・高の生徒が制作してくださった聖堂案内の動画が平和旬間中に限定して配信



平和記念公園 供養塔前 平和のための集いの様子



↑写真は、白浜司教、荻神父、大西神父、三宅神父また教区職員に協力いただき完成したポスター。撮影時は、みんなでわいわいと、まるで家族写真を撮っているかのような楽しい時間でした。みなさまも、ご自身の教会の主任神父様とパロディ撮影会をしてぜひ企画室までお写真をお送りください！

Instagram
グッズ販売
アカウント



教区創立百周年記念行事実行委員会からの依頼を受け、青年たちで、記念グッズの制作を致しました。こちらのグッズは、来年九月

教区創立百周年記念グッズ
教区みんなで、おそろっち!

に開催予定の閉年ミサまで、一年を通して販売致します。
Tシャツ・エコバッグ
今後、小教区を回っての販売会もいくつか計画しておりますが、上記ORより、常時ご購入いただけます。
各二千円

J-CARM 広島便り

岡山南教会

日本とベトナムの交流の家

ヨセフマイバンテエ神父

「あなたを広島教区において奉仕するよう派遣する」

皆さんにご挨拶申し上げます。私はヨセフ・マイ・バン・テエと申します。ベトナムのソニック教区司祭です。私にとって祝福された新たな使命として今年五月中旬に広島教区に参りました。二〇一三年五月に司祭叙階を受けて、二〇一四年一月から香港教区に派遣され、司牧活動を行っていました。このたび、広島教区に派遣されたことについて分かち合いたいと思います。

教区のアレキシオ白浜司教の招きに応えて、あなたを

広島教区で奉仕するよう派遣したいと思えます」と言われました。急にこう告げられ大変驚きながらも、その場で聖霊と共に祈ってから「少々恐れています、この新しい使命を受け入れます」と答えました。香港で六年間喜んで働き、習慣や言語、人間関係に慣れてきたところでした。これから日本ですべてのことが新しく始まり大変だろうが、神様に任せてお導き頂きたいと思いました。

その夜、次の朝ミサを準備していた時、翌二月六日は「聖パウロ三木と同志殉教者」の記念日に当たることに気づき、聖殉教者のことを思い、神様が私のために新しい計画を準備してくださることを深く感じました。そして、聖殉教者が信仰を受け入れ、生き、証しし、伝え、苦難と試練と迫害に満ちた時代を過ごしたことを通して、私を強めて下さることを確信しております。現在住んでいる日本とベトナムの交流の家（岡山南教会内・旧ゆりかご保育園）に聖殉教者の写真をかけて、聖人たちと共に広島教区における福音宣教のために祈っています。この新しい使命を受け、成功を求めませんが、謙虚、忍耐、より深く信じるように願いたいと思えます。

皆さんがいなければ、私の使命を十分に果たすことも出来ないということも確信しています。私のために祈り、福音宣教のために助けて頂きたいと思えます。私もこの新しい使命を受け入れ、信仰のうちに常に広島教区のために祈っています。

皆さん、私の分かち合いの言葉を読んで頂き有難うございました。教会と共に歩み、共に参加し、共に神の栄光を表すことが出来ますように。（ルカ11・2参照）



白浜司教を中心に、岡山鳥取地区の司祭団

教会巡礼・聖書写経キャンペーン 完了者紹介（敬称略）

- ◆ 聖書通読を完了された方
 - No.012 彦島教会グループ
真浦美千代、真浦徹司、阿川昌子、松本喜代子、中野陽子
 - No.013 観音町教会グループ
工谷千焠、工谷由美子、栗栖智子、中原由紀子、永井幸、平岡淑子、岸本久美子、高橋好美
 - No.014 豊原みどり 観音町教会
- ◆ 教会巡礼を完了された方
 - No.49 加賀栄子 幟町教会
- ◆ 新約聖書写経を完了された方
 - No.028 鷺尾優子 倉敷教会
 - No.029 井上美月 幟町教会
 - No.030 岩下悦子 祇園教会
 - No.031 豊原みどり 観音町教会
- ◆ 旧約聖書完了（全巻完了）を完了された方
 - No.011 鷺尾優子 倉敷教会
 - No.012 井上美月 幟町教会
 - No.013 岩下悦子 祇園教会
 - No.014 豊原みどり 観音町教会

地区便り

岡山鳥取地区



講師の山口神父

*久しぶりの公開講座

十月一日(土) 倉敷教会 信徒養成講座が開催されました。講師に元・岡山鳥取地区地区長山口道晴神父様をお迎えし「ミサとミサに預かる心」と題して講演され、およそ七十名の信徒が参加しました。

わたしたちは、多忙な社会生活でミサに与る喜び、また、見えない恵みを忘れていて、と語られました。ミサでの祈りを聴きながら一週間分の力を蓄え、本当に大切なものは何であるか社会的価値観に支配されず神の言葉を、自分たちにむけられた言葉として受け止め、それにしたがって生きなければならぬと優し

く諭すようにお話をくださいました。

その後のミサでは、ミサからいただく恵みを考えながら与れたのではないのでしょうか。ご参加、ご協力に感謝。

山口鳥根地区

*花咲く郷祈りの家

山口県東端・周防大島にある花咲く郷祈りの家は、バプテスト教会だった築九十年の会堂と付属おさなご学園を改修し保養宿泊施設にしています。二〇一七年春に開所しました。きっかけは福島第一原発被曝児童受け入れでしたが、開所以来憩い・リハビリ・ワー



花咲く郷祈りの家

クシヨップ、修学旅行生の民泊体験学習、地域の月例音楽会、エキユメニカルな交わり、維持会員のバカンス拠点などとして、広く扉を開放しています。

島の信徒は月二・三回の水曜ミサに与られます。山口鳥根地区の夏期召命学校や教区神学生合宿にも利用され、光・柳井教会の宣教フロンティアとなっています。

広島地区

*広島カトリック聖歌隊

略称「HCC」の紹介

私達は二〇一七年七月に広島地区の聖歌隊として発足した。責任者は地区

長ヴィタリ神父、中村神父、典礼指導はミカエル金起煥神父となった。(地区司祭評議会にて決定) なおHCC設立に当たって白浜司教様のご理解と励ましを頂けたことは聖歌隊がまとまる大きな力となった。三人の司祭のも

とで幟町、観音町、祇園、呉、廿日市、三篠、翠

町の代表者達が役員となり闊達な話し合いを持ち準備を進めた。ポスターで地区内全小教区にこの聖歌隊の設立を知らせ、参加を呼びかけた。しかし聖歌隊や歌唱担当者を持たない小

教区も多く、希望はあったがこれ以上参加する教会はなかった。結果六教会での発足となった。現在名簿上の隊員数は百名を超えている。

発足年時は、ミサや聖歌について有意義な研修会を毎年持ったが現在はコロナの感染防止上開催を見合わせている。内陣から遠くにある聖歌隊席だが、聖歌隊の典礼的役目を果たす為、常に司式者の祈りや式の進行と一つ



世界平和記念聖堂の聖歌隊席で歌うHCCメンバー (2022平和行事)

になる努力を大切にしている。ミサ中は緊張し、練習も大変な時もある聖歌隊だが、ミサの中で「一致して歌う喜び」という大きなお恵みを頂いている。現在の責任者萩喜代治神父、典礼指導者ミカエル金起煥神父と共に一日も早く歌唱奉仕ができる日を皆で待っている。感謝と希望の中で

*教会学校リーダー会

オンライン教会学校

新型コロナウイルス感染症は収まらず、教会に行けない子ど

＋ 信仰継承～神さまに愛されているから～
2022年度子どもミサ (広島地区教会学校リーダー会)

来て見てごらん！－イエスさまの平和



日時：2023年1月29日(日) 11:30～13:00
会場：祝園カトリック教会 (広島市佐伯区祝園3-6-1) ※駐車場無料
司式：白浜 満 司教・三宅 仁孝 神父
テーマ：来て見てごらん！－イエスさまの平和 ※ミサ前にワークショップをします！
対象：小学生・中学生・高校生・教会学校リーダー
保護者・祖父母・フレンド＆ママ・関心あるすべての方
※お申し込みは、要項をご覧になり、小教区単位でお願いします。

幼児さんは保護者の方と一緒に！
お問い合わせ：広島地区教会学校リーダー会
TEL ★ 090-5708-5867

子どもミサのポスター

もたちも多く、教会学校の開催も儘ならない状況の中、オンラインで教会学校を開催することにチャレンジいたします。オンラインというふうの木で、イエスさまや他の教会のお友達ちとつながってみませんか。この試みが各小教区の活動のご参考となれば幸いです。

日時：二〇二三年
十一月二十七日(日)
十一月二十三日(日)
十一時～十二時三〇分
対象：幼児・小学生

要申込

内容：司教様メッセージ・神学校の生活の紹介・歌・クイズなど
子どもミサ

年明けには、広島地区の教会学校の交流のために、気軽に参加できるワークショップと子どもミサを計画しました。テーマは「来て、見てごらん！ イエスさまの平和」です。仲間たちと一緒に楽しくイエスさまとの親しみを深め平和を祈りましょう。ギターと一

(中高生の参加も大歓迎)

緒に歌うすてきな聖歌も準備しています。

日時：二〇二三年
一月二十九日(日)
十一月三〇分～十三時

要申込

場所：祇園教会
対象：小学生・中高生
(幼児さんは保護者同伴)

内容：ワークショップ・ミサ
司式：白浜満司教・三宅仁孝神父

たくさんのご参加をお待ちしています！

海峡からの風 65
下関労働教育センターだより

個人的にフードバンク活動を始めて七年以上になる。東ティモール独立支援運動からケニアのスラム街の子どもたちの支援に携わって来た私がフードバンクに足を踏み入れたのは、当時協働していた大学生の「私たちはアフリカの子どもたちに給食募金を送る活動をしているのに食べ残すなんて許さない」との飲み会での発言と、日本で捨てられている食品の量がWFPなどの支援する食糧の量とほぼ同じと聞いたからで、食べ残しを減らし、期限切れ前に食品を回収して、生活困窮者に「おすそわけ」する、何かほのぼのとした活動だと思っていた。ところが相対的貧困の割合は日本は存外に多く、とりわけ「子どもの貧困」は六人に一人と言う実情を知り、また行政などの困窮者支援はザルで民間やボランティアがセーフティネットを作り支えている状態を目の当たりにしたら、ほのぼのどころか、あれもこれもと課題が降りかかり、コロナ禍、ウクライナ危機が追い討ちをかけて来た。

食品ロスを削減すべく、回収の

範囲を広げ、再分配に努めるにつれ、食品ロスを生み出すのは資本主義経済の歪、競争社会からの格差社会など、長年の歴史と政治経済の中で作り上げられた社会の仕組みが根源的な問題であると知る。

個人的にも、下関労働教育センターも、今までそしてこれからも様々な「現場」と言う末節で理不尽に苦しむ人々に寄り添う活動を続けていくのだろうか、中々根源の解決にはたどり着かない。その根源に向かうべき立場の人々は、その歪んだ根源の仕組みを構築することに大いに寄り添った御仁の「国葬」を半数近い国民の反対や疑問に伝えることなく強行する有様で、一層歪みが増すとしか思えない。嘆息。

尚、この度フードバンク山口の玄米保冷庫設置のため、下関労働教育センターに場所をお借りしたことに謝意を表する。

大城 研司

伯雲協働体

*平和祈願ミサのご案内
〜永井隆博士を
記念して〜

病床から愛と平和を訴え続けたパウロ永井隆博士を偲び、博士の故郷から世界平和を祈ります。

日時：十一月二十三日

(祝・水)

会場：永井隆記念館（雲南市三刀屋町）

十時〜平和祈願ミサ

司式

高見三明名誉大司教

(長崎司教区)

白浜満司教

(広島教区)

伯雲協働体（米子・松江・出雲） 主任神父

十一時十分〜十二時 講演

講師 高見三明名誉大司教

司教

演題 「永井隆博士の

列福運動」

お願い…

参加につきましては、

会場が狭いため人数制限

をしています。

主催：伯雲協働体

三刀屋如己の会

青少年の活動

教区創立百周年

記念グッズ販売開始

青年のためにいつもお祈りくださり、ありがとうございます。教区創立百周年に合わせ、青年たちで制作した記念グッズの販売が始まり、早速、米子教会にて開催された「開年ミサ」に行かせていただきました。

当日は、スタッフの皆さまが記念グッズのTシャツを着用して下さっており、制作に関わった青年たちにとっては、とても嬉しい光景でした。

ミサ後も米子教会の信者さんと直接お話ししながら販売することができ、貴重な良い機会を頂けたこと、感謝しております。

また、販売ブースの隣には、「ワールドユースデイ(WYD)リスボン大会」へ広島教区から多くの青年を派遣できるようにと、参加費補助のための募金箱も設置させていただきました。WYDはカトリックの青年が一堂に集う世界大会です。非日常の中でカトリックの仲間と出会い寝食を共にすることは、体験しがたいもので、参加者の多

くは信仰があることに喜びを感じ、帰国の途につきま

す。そんなWYDへ広島教区から多くの青年を派遣できるように、皆さまと一丸となれたらと思っております。また、記念グッズの売上もWYDリスボン大会の参加費補助にあてさせていただきますこととなり、グッズ購入を通して、青年派遣にご協力いただけます。既に、各小教区より多くの注文が届いており、おかげさまで第一期は完売致しました。今後は小教区を回っての販売も行っていきたいと思っております、急い

で増産中です。改めて、感謝申し上げます。

今後は、小教区を回っての販売も行なっております。WYD参加に向けた準備も合わせて、今後の青年たちの活動が、神様に守られながら行なっていけますよう、お祈りくださいますと幸いです。(青年活動企画室)

の様子を
ご覧いただけます！



〈お問い合わせ〉

wyd2023.lisbon.dp@gmail.com

(WYD2023リスボン派遣プロジェクト)



三篠教会（広島市西区）でのグッズ販売の様子

書籍紹介

『何を信じて生きるのか』

著者：片柳弘史神父

出版社：PHP研究所

定価1300円＋税



カトリック宇部教会を舞台に繰り広げられる、学生と神父の宗教をめぐる対話。「神がいるなら、なぜこんな不条理なことばかり起こるんですか」「なぜ、自由を放棄して神に従わなければならないのですか」など、次々と寄せられる鋭い質問に、果して神父は答えられるのか。宗教とは何か、何を信じるとはどういうことなのか、改めて根底から考え直したい人にお勧め。



フィエスタは 感謝の祭儀

米子教会・フィリピン宣教会
ゼルナ・ロルダン・オリラン神父

皆さんは、フィエスタという言葉を知ったことがあるでしょうか？

フィリピンでは、それぞれの地域で、町をあげて、その土地の守護の聖人の祝日を祝う習慣があります。聖人のご像をかかげて行列をしたりもしますが、実はフィエスタにはそれ以上の深い意味があります。

フィエスタの時には、どの家でも、それぞれにお祝いの食事を準備し、人々を招待して、一緒に祝宴を開くことになっているのです。人々と食物を分かち合う事が、フィエスタの最も大切なこととなっています。



と違った新しい人間にしてゆくはずで。ご聖体は、私たちが新たにし、私たちの命を変容させるはずなのです。

私の故郷のフィエスタは、二月二日です。私の実家には、たくさんの方が来ます。その数は、毎年、増え続けています。それは、親戚が増え、友達が増え、知り合いが増えるからです。日本に来て一番懐かしく思い出すのは、フィエスタのことです。フィエスタの時には、招かれていない親戚や友人がいないよう気を配り通知します。

感謝の祭儀、いわゆるミサは、それが食事であるという点では、フィエスタのようなものです。祝宴を催されるのは神様です。神は、様々な人生を歩む人々を同じ祝宴に招き、私たちがこのフィエスタに参加することを望まれるのです。私たちはパンと葡萄酒の形のもとにイエスを拝領します。私たちが拝領するパンと葡萄酒は、私たちが以前

マタイ22・1-14の中で

宴席をもうけた主人を怒らせたのは、最初に招待された人々が、招待を無視したことでした。次に呼ばれた客の場合は、ふさわしい準備をして来なかったことでした。どちらの場合も、招待を受けることの意味をよく理解していませんでした。でなく、その祝宴がどのようなものか、分かっていたのにもかかわらず、招待されたことを感謝している様子もなく、自分たちの思いだけに捕らわれており、余裕がないのです。

私たちはミサに与って、ご聖体が生活の中心でなければならぬとしばしば聞いています。しかし、それは頻りに聖体拝領をするというだけではなく、神を中心にする生活をする事なのです。

一体、どのようにすれば出来るのでしょうか？

まず、朝、その日の予定の全てのことを神に捧げる事です。何かを行動に移す時には、神さまを喜ばせることになるか神さまにうかがう事です。このようにしている、祈りなしで何かを決めるといった事はなくなりません。一日の終わりには、いただいた恵みを感じて、神と人々をもつと愛する決心をして一日を終えます。

私たちがこのように、毎日を通して行うように、神の助けを願いましょう。私の日本語のミサはまだ上手ではありませんが、ミサはもとより、すべての秘跡は、神ご自身が働かれるものですから、それを司式する司祭がどうであるかは、たいした問題ではないのです。ミサと秘跡は、神の現存を示すしるしであります。私たちが神を中心にした生活をする事によつて、ミサと秘跡がもたらす効力を日常の生活の中で発見して行くことができるように願ってミサに与りましょう。



いよいよ今度の待降節から新しい式次第を用いたミサの実施が開始される。四十四年ぶりの日本語のミサ式次第の改訂ということ、初めて改訂の時を体験する信徒も少なくないだろう。変更箇所慣れるまで少し時間がかかるかもしれないが、一つひとつの言葉をつくりと味わいながら、ミサを通していただく恵みを今一度意識する機会にできればと思う。(あ)

